

コロナ禍と学校生活（小学校）

～コロナ禍について考えよう～

F-2-1
コロナ禍

【対象】小学生、中学生
小学生なら高学年から

【時間】180分
学校なら4時間扱い程度

【会場】教室、学校図書館 など

【参加者の持ち物】
筆記用具、色ペン、付箋など

【準備】キット 9-1 9-2 9-5 9-7 9-8 9-9 9-10
9-11 9-12 9-13
感想交換用の付箋

【講師】担任、
学校司書（全体的な支援やレ
ファレンスを行う。）

【活動の流れ】

（1）「コロナ禍」についての大体を知る。（思い起こす）

- ①「コロナ（禍）」で知っていること、連想することを出し合う。
- ②家族や先生、その他周囲の方たちにインタビューをしてくる。

（2）インタビュー内容を共有して、自分がかわしく調べたい内容・テーマを決める。

- ①興味のある新聞記事を見る。9-1 9-2 9-5 9-7 9-8 9-12 9-13
(発展的に、9-9、9-10 を扱うことも考えられる。)
- ②テーマを絞り、関連した新聞記事を見つける。

（3）新聞記事を読んで、くわしく状況を知り考える。9-7 9-8 9-11

- ①テーマに関連した記事を複数読んで比べる。
例 A「コロナ禍における学校生活」
B「お店の人たちの工夫」
C「お医者さんたちの苦勞」等々
いろいろな記事を読む中で、自分たちは気付かなかった当時の社会の状況に気付きな
がら、新聞記事を探していくようにする。
- ②意見交換をする。
互いに伝え合い、インタビューの内容や自分の周囲の状況等を交えながら、当時の
状況を想像する。

（4）各自、感想や意見をまとめて、自分にできることを考える。

- ①新聞記事から改めてくわしく知ったことや考えたことや、当時の学校生活のさまざ
まな工夫をもとに、自分の身に置きかえて考えを深める。
- ②意見交換をする。

（5）まとめをする。

- ①参考にした新聞記事と自分の考えをまとめた掲示物を作成する。
※時間の取り方によっては(4)まででも構わない。

【その他】

小学生にとって、コロナ禍の3年間は時間が長く、コロナ以前の生活についての比較がやりにくいことや、発達段階から当時、主体的な判断もできなかったことから、インタビューや新聞記事を読む時間を丁寧に確保して、当時の状況をつかめるようにする。